

番号	22	平成27年度公共事業事後評価調査			担当課名[農地保全課]	
事業名	ため池等整備事業 (用排水施設整備)			事業主体	静岡県	
箇所名	やしま がわ 屋島川			市町名	浜松市	
事業概要						
受益面積	55.0ha	採択年度	平成10年度	完了年度	当初	平成21年度
					実績	平成21年度
事業費	当初	745百万円		実績	701百万円	
事業量	排水路工 延長3,031m (1期延長638m、2期延長1,196m、3期延長1,197m)					
事業の目的・必要性						
<p>本地区は浜松市南部に位置する砂質土の平地で、砂地の特性を生かした葉ねぎ、エシャレット、サツマイモなどの栽培が盛んである。</p> <p>屋島川は昭和30年代前半に造られた排水路で、完成後約50年が経過していることに加え、地区内土地利用の変化等により、著しく排水に支障をきたしていることから、本事業により排水路を改修し農地、人家等に係る災害を未然に防止し農業生産の維持、農業経営の安定を図る。</p>						
事業の効果等						
費用対効果 分析結果	開始時 (H10)	B/C	総費用 8.00 億円 (事業費 : 8.00 億円)	総便益 8.30 億円 (農業生産向上効果 : 7.10 億円 農業経営向上効果 : 0.40 億円 生産基盤保全効果 : 0.80 億円)	基準年	平成10年
	事後	B/C	総費用 18.56 億円 (事業費 : 7.69 億円 再整備費等 : 7.13 億円 関連事業費 : 3.74 億円)	総便益 36.73 億円 (食料安定供給確保効果 : 15.20 億円 農業持続的発展効果 : 2.50 億円 農村振興効果 : 19.03 億円)	基準年	平成26年
<p>(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間や費用分析手法の変更に伴い、総費用、総便益額が増加した。 <p>(2) 事業効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 排水路の改修の結果、排水能力が2.3倍向上したにより、排水不良及び湛水被害が軽減し、次のような効果が得られた。 <p><食糧の安定供給確保に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 作物生産効果：(事業後)年被害軽減額 46.7百万円 ※ 排水不良に起因する農作物(葉ねぎ、サツマイモ等)55haの被害を防止することによる増収効果。 <p><農業の持続的発展に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 災害防止効果(農業関係資産)：(事業後)年被害軽減額 8.0百万円 ※ 湛水被害の軽減により、地区内排水路の土砂排除が軽減される効果。 <p><農村の振興に関する効果></p> <ul style="list-style-type: none"> 災害防止効果(一般資産)：(事業後)年被害軽減額 59.9百万円 ※ 住宅696戸、事業所67箇所において、床下浸水被害が軽減される効果。 						
事業により整備された施設の管理状況						
<p>浜松市西南部土地改良区が管理者となり、年に1回、耕作者と地域住民とが一緒に排水路法面の草刈りを行っているほか、随時、耕作者が水路管理を行うことで、適切に管理されている。</p>						

事業実施による環境の変化

- ・ 排水路の改修整備を実施したことにより農地の湛水被害が未然に防がれ、農業生産の維持、農業経営の安定が図られた結果、受益地内の耕作放棄地は、耕作意欲の向上、企業の参入により、調査を開始したH21年度から比較して3.1haから2.85haと減少傾向にある。
- ・ 排水路の整備により、条件の良い農地での営農を検討していた担い手農家3名を含む受益農家が本地区で継続的に農業経営を行うことが可能となった。
- ・ 葉ねぎ、エシャレット、サツマイモ等の少量多品目栽培の営農が展開されるようになった。

社会経済情勢等の変化

(1) 地域社会の動向

- ・ 南海トラフ地震の津波被害対策のために、本地区に隣接する遠州灘沿岸では、天竜川河口から浜名湖今切口をつなぐ17.5km(屋島川隣接箇所を含む)において防潮堤の整備が進んでおり、命を守る防潮堤の整備により安全安心な生活環境の確保が着々と進んでいる。

(2) 地域経済の動向

- ・本地区周辺では、企業が参入しウナギの残渣を活用したさつま芋、「うなぎいも」の栽培が行われ、うなぎいもは主にお菓子に加工されている。和菓子、洋菓子などの加工品は、地元店舗や百貨店、高速道路SAなどで販売され、メディアにも大きく取り上げられるなど、6次産業に発展し、本地域を特色付けている。

対応方針(案)

(1) 評価結果

事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。

- ・ 事業実施により、農地の湛水被害が軽減され、農業生産の維持、農業経営の安定が図られた。

(2) 今後の課題等

- ・ 本地域は国道1号(浜松バイパス)に近接している都市近郊の農業地域である。今後は、交通基盤が整備されている利点を活かして、農業への企業参入を促進するなど、農地の有効活用を図っていく必要がある。
近年のゲリラ豪雨の発生を踏まえて、今後も引き続き降雨時の資料収集に努め、効果検証を行う。

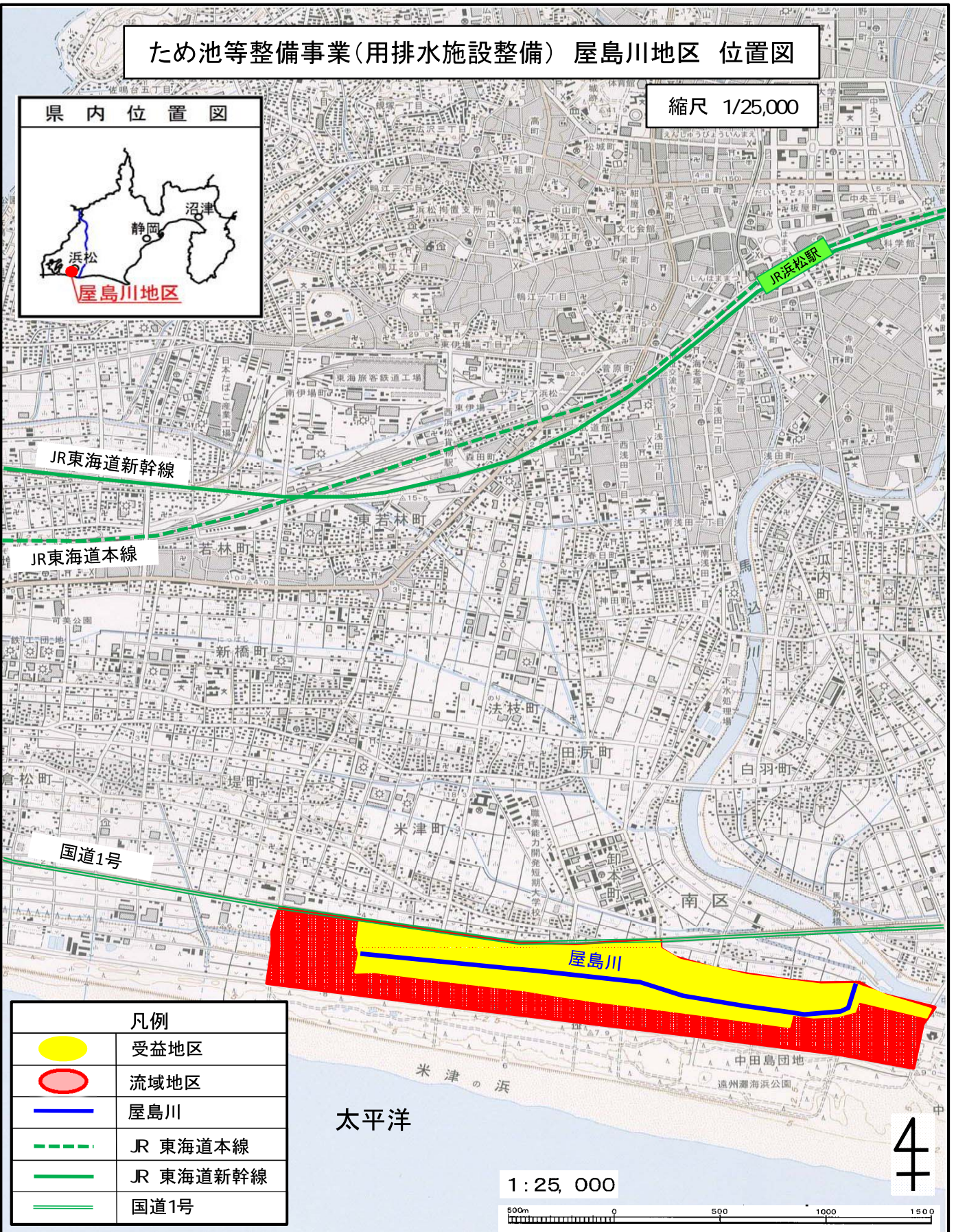
(3) 同種事業への反映等

- ・ 本事業では、事業目的である湛水被害が軽減されたことに加え、少量多品目栽培の営農が守られ、耕作地が維持されているなどの効果につながった。
- ・ 砂地や平坦な地域においても、被害防止を目的とした同種事業の実施により地域の営農活動を維持していく。






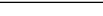
ため池等整備事業(用排水施設整備) 屋島川地区 位置図

縮尺 1/25,000

県内位置図



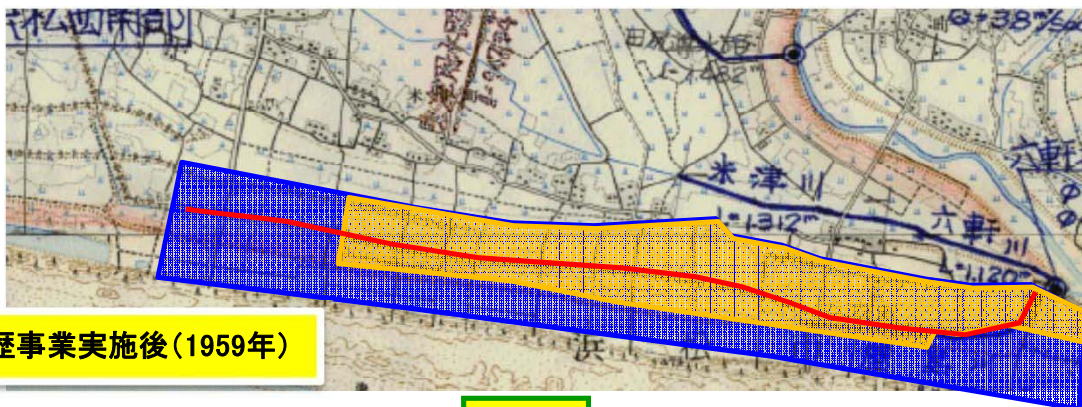
凡例

	受益地区
	流域地区
	屋島川
	JR 東海道本線
	JR 東海道新幹線
	国道1号

4

ため池等整備事業屋島川地区 事業効果

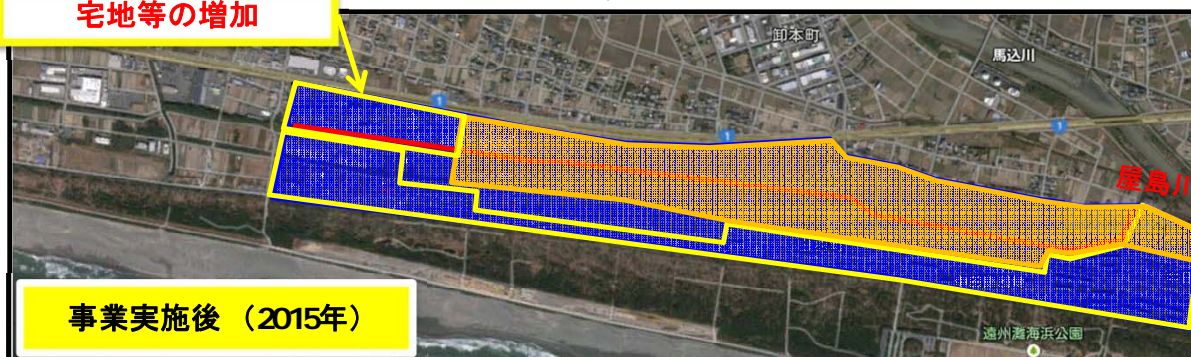
●事業効果の発現状況 ＜地区全景＞



前歴事業実施後(1959年)

- 凡例
- 屋島川
 - ▨ 流域
 - ▨ 受益
 - 宅地等

宅地等の増加



事業実施後(2015年)

＜湛水被害節減効果＞

事業 実施前



台風20号：平成2年9月26日～10月1日

大雨による湛水被害

事業 実施後



排水路の改修



災害を未然に防止

●事業実施による環境の変化

＜農村生活環境＞

排水能力の向上（2.3倍） → 湛水被害の軽減

名称	現況排水能力	計画排水能力
屋島川	2.8m ³ /sec	6.3m ³ /sec

県内各地で多くの災害を発生させた
台風18号（H26年）の影響はなかった

↓
安心して営農できる環境

＜参考＞ 台風18号の降雨記録（）内は災害要件となる基準値
最大日雨量：262.0(80)mm、最大時間雨量：69.0(20)mm

●社会経済情勢等の変化

＜地域経済の動向＞

うなぎいもの栽培 → 特色ある地域営農に発展



うなぎいも公式HP
コスモグリーン ホームページより



うなぎいもを使った商品の一部



平成23年4月13日付 中日新聞より

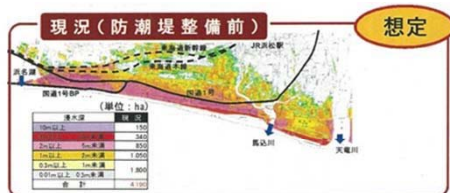


うなぎいもの栽培しているビニールハウス

●社会経済情勢等の変化

＜地域社会の動向＞

防潮堤整備整備(命を守る)



↓
安全・安心の生活環境の確保

